

日本脳炎の感染に注意しましょう

～近県で日本脳炎の報告がありました～

日本脳炎とは…

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスによっておこる感染症です。ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺した蚊が人を刺すことにより感染します。ワクチンの普及と生活環境の改善により日本脳炎の患者は減少していますが、蚊の発生時期である夏から秋にかけて、年間0～10例程度の報告があります。関東近県での患者発生や県内のブタ調査で感染例も確認されているため注意が必要です。なお、人から人への感染はありません。

日本脳炎に感染すると…

ウイルスを保有する蚊に刺されても、症状が現れずに経過する 경우가ほとんどです（100人から1000人に1人の割合で発症するといわれています）。症状が出る場合には、通常6～16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱（38～40℃あるいはそれ以上）、頭痛、悪心、嘔吐、めまいなどの症状が現れ、重症例では意識障害とともに神経系障害が生じます。脳炎を発症した場合の致死率は20～40%といわれており、乳幼児や高齢者では死亡の危険が高くなります。また、生存者の45～75%に痙攣、麻痺、精神障害などの後遺症が残るともいわれています。

感染を防ぐために…

1. ウイルスを媒介するコガタアカイエカ（コガタイエカ）に刺されないよう次のことに気をつけてください。

○外出時は、肌の露出を少なくするため、なるべく長袖シャツ、長ズボン等を着用し、適切に虫除け剤や蚊とり線香を使用しましょう。

○家の中へ蚊が入らないように窓や扉の隙間をなくし、網戸や蚊取り線香などを使用して蚊の侵入を防ぎましょう（蚊帳も有効です）。

○出入口や窓にぶら下げ型虫除けを複数個吊したり、蚊が数時間いなくなるスプレーを使用するなどして建物外周に蚊が近寄りにくくしましょう。

2. 休養、栄養、睡眠を十分にとり、過労をさけ免疫力を維持して健康管理に努めましょう。

3. ワクチン接種により、日本脳炎の感染リスクを75～95%減らすことができると報告されています。



○標準的な接種年齢（定期接種）

〔1期初回〕接種開始：3歳、接種回数：2回（接種間隔6日以上）

〔1期追加〕接種年齢：3～4歳、接種回数1回（初回接種後、概ね1年）

〔2期〕接種年齢：9歳以上13歳未満、接種回数1回